

質問回答書

工事名称 : 新病院予定地周辺道路付替工事

質問番号	項目 ページ番号 図面番号	質疑内容	回答
6	設計書・下水道工事（雨水管渠）（汚水）	土工の項目がありませんが、道路工事1・道路土工・掘削工の床掘に含まれているのでしょうか。その場合、雨水管渠の土工は土留ありとなりますが、上記床掘には土留ありのみで土留ありについては変更と考えてよろしいでしょうか。	道路工事1に含まれます。土留ありの数量については、別途協議とします。
7	設計書・道路工事1・仮設工	交通管理工の交通誘導警備員Aと交通誘導警備員Bの員数をご教示願います。	必要人数を計上してください。
8	設計書・下水道工事（雨水管渠）	山留仮設工で油圧バイプロ鋼矢板打ち込みとなっていますが、周辺環境により圧入打ちとなった場合は変更と考えてよろしいでしょうか。	構造物が近接していないため油圧バイプロで計上しています。油圧圧入打ちが必要となる場合は、別途協議とします。
9	設計書・道路土工1	盛土部には旧配水池があり、底部は軟弱と予想されますので、地盤改良は必要となると思われませんが、協議の対象と考えてよろしいでしょうか。	現地の確認状況により、別途協議とします。
10	全般	旧船場東3号線は全面通行止めと考えてよろしいでしょうか。その場合、通行止めの開始時期をご教示願います。	現在の市道船場東3号線の全面通行止めは予定しておりません。切り直し工事等において一時的な交通規制は必要と想定しています。
11	全般	隣接建物のCOM1号館の解体時期についてご教示願います。	令和4年10月～令和5年11月30日が工期となっております。
12	設計書・道路工事1・舗装工第15号単価表	車道部 上層路盤で再生アスファルト安定処理材となっていますが第98号単価表の規格には再生粒度調整砕石になっており、図面1-3ではセメント安定処理砕石となっています。また同じ次段の上層路盤の第99号単価表施工Pで厚みが150mmとなっていますが、図面1-3では100mmとなっています。どちらが正でしょうか。ご教示願います。	道路工事1の車道部上層路盤（第98号単価表）は、再生アスファルト安定処理砕石です。また、同工事の車道部上層路盤（第99号単価表）は図面1-3のとおり、厚み100mmです。
13	設計書・道路工事1・舗装工第15号単価表	歩道部 表層で再生密粒度750ㄱとなっていますが第101号単価表では透水性アスファルト舗装となっています。どちらが正でしょうか。ご教示願います。	道路工事1の歩道部表層は、透水性アスファルト舗装です。
14	設計書・道路工事2・舗装工第23号単価表	車道部 上層路盤でM-30となっていますが、第130号単価表ではRM-40となっています。また第23号単価表ではt=10cmですが施工Pでは150mmとなっています。どちらが正でしょうか。ご教示願います。	道路工事2の車道部上層路盤は、RM-40で厚み100mmです。
15	設計書・道路工事2・舗装工第23号単価表	車道部 下層路盤でt=30cmとなっていますが、施工Pでは150mmとなっています。どちらが正でしょうか。ご教示願います。	道路工事2の車道部下層路盤は、厚み300mmです。
16	設計書・道路工事2・舗装工第23号単価表	歩道部 表層では再生密粒度750ㄱとなっていますが第132号単価表では透水性アスファルト舗装となっています。どちらが正でしょうか。ご教示願います。	道路工事2の歩道部表層は、透水性アスファルト舗装です。
17	設計書・道路工事2・舗装工第23号単価表	殻運搬で舗装版破砕となっていますが、切削の間違いではないのでしょうか。また処分費が計上されていませんが追加と考えてよろしいでしょうか。ご教示願います。	舗装版破砕ではなく切削となります。また、処分費については追加とします。

質問回答書

工事名称 : 新病院予定地周辺道路付替工事

質問番号	項目 ページ番号 図面番号	質疑内容	回答
18	設計書・下水道工事（污水）	第51号～第59号単価表のなかで数量が空白のところがありますがご教示願います。	<ul style="list-style-type: none"> ・第51号単価表（管渠工 ヒューム管HPΦ250） 鉄筋コンクリート管布設 HPΦ250 2.4m 管基礎 90° コンクリート基礎 HPΦ250 2.15m ・第52号単価表（管渠工 ヒューム管HPΦ450） 鉄筋コンクリート管布設 HPΦ450 221m 管基礎 90° コンクリート基礎 HPΦ450 186m 管基礎 120° コンクリート基礎 HPΦ450 32m ・第53号単価表（塩ビ管VUΦ450） 硬質塩化ビニル管布設工（機械施工） 呼び径450mm 4m 砂基礎設置工（人力施工）2.24m³ ・第55号単価表（管路土留工 HPΦ250 H=4.5m） たて込み簡易土留 建込（両側分）掘削深4.5m以下 3.2m たて込み簡易土留 引抜（両側分）掘削深4.5m以下 3.2m ・第56号単価表（管路土留工 HPΦ450 H=4.0m） たて込み簡易土留 建込（両側分）掘削深4.0m以下 17.5m たて込み簡易土留 引抜（両側分）掘削深4.0m以下 17.5m ・第57号単価表（軽量鋼矢板工 HPΦ450） 軽量鋼矢板建込工（両側分）掘削深3.0m以下 21.6m 軽量鋼矢板引抜工（両側分）掘削深3.0m以下 21.6m 軽量鋼矢板 賃料 1式 土留支保工（軽量金属支保工）2段、掘削深3.5m以下、水圧式ハイポート 21.6m 土留支保工 賃料 1式 ・第58号単価表（1号組立マンホール） 底部工（タイプ1）基礎、床版、インバート 11箇所 底部工（タイプ2）基礎、床版、インバート 1箇所 底部改良工 インバート 1箇所 ブロック据付工 斜壁、直壁等 31個 蓋（受枠とも）及び調整リング据付工 24組 外副管取付工（No.6） h=0.673m、Φ250 1箇所 外副管取付工（No.7） h=0.818m、Φ250 1箇所 外副管取付工（No.12） h=0.925m、Φ250 1箇所 外副管取付工（既設No.14） h=1.90m、Φ250 1箇所 調整モルタル 12箇所 可とう継手 HPΦ450 22箇所 可とう継手 VUΦ450 2箇所 可とう継手 HPΦ400 1箇所 可とう継手 HPΦ250 2箇所 ・第59号単価表（土留工） 軽量鋼矢板建込工（両側分）掘削深3.0m以下 7.45m 軽量鋼矢板引抜工（両側分）掘削深3.0m以下 7.45m 軽量鋼矢板 賃料 1式 土留支保工（軽量金属支保工）2段、掘削深3.5m以下、水圧式ハイポート 7.45m 土留支保工 賃料 1式
19	設計書・第13号単価表	設計図面番号2-9にある縦断・基盤排水溝は集水管として計上されていますが、基盤排水層および縦排水溝の計上されていません。追加と考えてよろしいでしょうか。	基盤排水層および縦排水溝については、追加とします。